

OZORA

大空町 第3次総合計画

3rd

General Plan of
OZORA TOWN

2026

2035

[概要版]

安心と希望を
未来につなぐまち



大空町

■大空町役場

〒099-2392

北海道網走郡大空町女満別西3条4丁目1番1号

TEL.0152-74-2111 FAX.0152-74-2191

■大空町東藻琴総合支所

〒099-3293

北海道網走郡大空町東藻琴360番地の1

TEL.0152-66-2131 FAX.0152-66-2423

URL <https://www.town.ozora.hokkaido.jp/>



大空町



大空町の新しいまちづくり計画 「総合計画」が完成しました

どんな内容ですか？

これからの10年間、産業や福祉、教育など、町全体の取組をどうやって進めるのかをまとめた内容で、まちづくりの基本になる計画です。

なるほど、それは大事な計画ね。今までもあったんだ。

そうなんです。今回は大空町にとって、3回目の計画になります。

第1次計画

平成20年度から平成27年度まで

「大空町自治基本条例※」の中で、総合計画を町の最上位計画にすることを示して、町民と行政の協働を基本にまちづくりを進めてきました。

※町を良くするために、町民や企業、議会や行政が同じ目的を持って、協力しながら町を良くしていくための基本になるルールを決めたもので、「町の憲法」とも言われています。

第2次計画

平成28年度から令和7年度まで

人口減少を少しでも抑えて、いつまでも住み続けられるまちづくりを行うことを目指し、子育て支援や教育、移住定住にも力を入れました。

第3次計画

令和8年度から
令和17年度まで

大空町への移住が増えるなど効果がありましたが、人口減少は歯止めがかからず、厳しい状況が続いています。世の中の動きや大空町の課題もふまえて、めざす町の姿やこれから取り組む内容(施策や事業)をまとめました。

計画の構成や期間を説明します

この計画は「基本構想」「基本計画」「実施計画」の3つでできています。



大空町にとって大事な計画だと思うけど、どうやってつくったの？

アンケートやインタビューなど、様々な方法で町民の皆さんから意見をいただき、役場で計画案を作って、町民の皆さんが参加する会議や町議会です話し合っ決めてました。

ここからは計画の内容を説明します

アンケート結果などから、大空町にはこんな課題があると考えています。

住みにくさに つながる 不安や不満の解消

住みづらいつと感じさせないように、高齢者が感じる住みづらさ、老後が近い人の不安、若い世代をはじめ各年代が感じている交通の不便などの解消が重要です。

こどもや 子育て世代の 評価を維持、向上

こどもや子育て支援への評価はこの10年間で改善しています。今後も、こどもや子育て世代の声を聞きながら、評価を維持、向上していくことが重要です。

人口減少の抑制、 地域の活性化に つながる産業を振興

大空町で働きたい、滞在したい、仕事を始めたい人たちの希望を後押しすることや、住む人・訪れる人が魅力を感じる店やサービスを増やすことが重要です。

「大空町」だから できることを もっといかす

女満別と東藻琴、2つの特色ある地域があることを町の強みとしていかし、地域間を移動しやすくするなどの改善も重要です。

そして、大空町がめざす将来像を決めました!



安心と希望を未来につなぐまち 大空町

変化が激しく未来予測が困難な現代ですが、これからも、だれもが暮らし続けることができる大空町をめざし、未来につなげていきたいと考えます。

だれもが安心を感じられる土台をしっかりと築きながら、変化する環境にも力を合わせて対応し、大空町に住むすべての人が未来への希望を持てるまちづくりを進めます。

安心

●医療や福祉、生活を支える基盤の充実などで安心の土台を築き、子どもから高齢者まで、子育て世代もひとり暮らしも、安心して暮らせるまちになることをイメージしています。

希望

●子どもや若者が個人として尊重され、子育て支援や教育の充実などにより、子どもたちが希望を持てるまちになることをイメージしています。

●町の魅力が高まり、産業の振興や雇用の創出が進むことで、次代に希望が持てるまちになることをイメージしています。

●考えや世代が異なっても、それぞれが自分らしく、幸せに生きることができる居心地のいいまちになることをイメージしています。

未来につなぐ

●「安心」や「希望」が持てるまちを10年後の大空町につないでいくことで、持続可能なまちをめざすことをイメージしています。

10年間でめざす数値(指標)も決めました!



人 □ この計画が終了する令和17年の人口の目標を「5,300人」とします*。

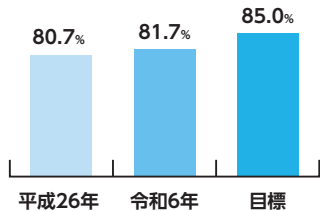
*大空町の人口の見通しを示す「人口ビジョン」では、令和17年に5,132人を下回らないことをめざしており、総合計画では、この数値を上回る5,300人を目標とします。

住みよさ

令和6年に実施した町民アンケートで「住みよい」または「どちらかといえば住みよい」と答えた人の割合*が85.0%を上回ることをめざしていましたが、81.7%でした。

今回も引き続き、85.0%を上回ることを目標とします。

*選択肢は「住みよい」「どちらかといえば住みよい」「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」の4つです。



「安心と希望を未来につなぐまち 大空町」をめざして取り組むまちづくりの方向を、5つの「基本目標」で示しました。
取り組む内容は、この後の9ページから紹介していきます。



5つの「基本目標」

安心と希望を未来につなぐまち 大空町

基本目標 1 魅力やうるおいを生み出す産業を展開するまちづくり

地域経済を支える安定した農林水産業、大空町の資源をいかし来訪や交流人口を生み出す観光、町民の生活を支え、地域に活気や活力を与える商工業など、それぞれ分野での発展はもちろん、相互の連携により一層振興することで、大空町の魅力を高め、うるおいを生み出す産業が幅広く展開されるまちづくりをめざします。

基本目標 2 すこやかでおだやかな生活ができる福祉のあるまちづくり

こどもからお年寄りまで、だれもが心身ともにすこやかに過ごせるまちづくりをめざします。また、年齢や世帯構成、置かれる状況が異なっても、だれもが大空町で、おだやかに生活することができるまちづくりをめざします。

基本目標 3 夢と学びがひろがり未来につながるまちづくり

学びやスポーツをとおして一人ひとりの夢や視野などがひろがり、未来を拓く人を育てるまちづくりをめざします。
また、色々な世代の人が学びやスポーツによってつながることで、知の好循環が生まれ、未来に向かって続いていくまちづくりをめざします。

基本目標 4 これからの住みやすさを支えるまちづくり

人口減少や高齢化に対応し、環境保全を意識した生活基盤を整え、維持していくことで、年代や住んでいる場所に関わらず、だれもが住みやすく、また、住み続けられるまちづくりをめざします。また、日常生活の中で起こりうる危険な状況から町民の生命や財産を守り、安心・安全に過ごせるまちづくりをめざします。

基本目標 5 未来につながる持続可能なまちづくり

まちづくりに関する情報や課題を多くの人と共有し、より住みよいまちづくりに向けて立場をこえて協働することで、難しい課題も解消し、希望が持てる未来へとつながるまちづくりをめざします。また、大空町の魅力を発信し、町民が住みよさを感じたり、魅力にひかれて多くの人を訪ねたりすることで、移住や定住につながっていくまちづくりをめざします。



まちづくり全部に関する計画なのは分かりました。
特に力を入れることってありますか？

人口の減少を食い止めることに特に力を入れます。
そのための取組を「重点施策」として進めます。



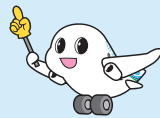
この計画の中で、 特に力を入れて取り組む「重点施策」

大空町の将来像は“未来につなげていく”ことを重視しており、そのためには、人口の減少を抑えることが欠かせません。人口減少対策につながる施策を「重点施策」と位置付け、総合計画と同じく、令和8年度にスタートする、人口減少対策の計画「第3期大空町まち・ひと・しごと創生総合戦略」と一体的に取り組めます。

これまでの取組で効果があった内容に加え、より多くの人に住みよさを感じてもらえる取組、女満別空港など大空町ならではのよさを更にいかしながら人口の減少を抑えることをめざします。

重点施策(大空町総合戦略)の方向性

- これまで効果があった取組を今後も推進(移住促進や子育て支援など)
- より多くの人に住みよさの向上を感じてもらおう(多様な暮らし方・働き方を応援、不安の解消)
- 大空町固有の地域資源、特徴をいかし活力を産み出す(女満別空港、特産品、町名などをもっといかす)
- 交流人口や関係人口を増やし、地域の活性化、定住につなげる
- 新たな技術で便利さや安全・安心を高める



交流人口、関係人口って何ですか？

交流人口は大空町に訪れる人たちのことで、町外から通勤・通学している人、観光や仕事で来る人、女満別空港を利用する人などです。
関係人口は、町外に住む大空町出身の人や大空町に関心や愛着を持って関わっている人たち(イベントやボランティアに何度か参加している人、大空町のふるさと納税に参加している人など)です。
大空町との関係をもっと深めてほしいと思っています。



5つの「基本目標」ごとに、取り組む内容を紹介します！



基本目標 1 魅力やうおいを生み出す産業を展開するまちづくり

1 農林水産業

- スマート農業*を進めて農作業の手間を減らすほか、新たに農業を行う人の育成、アルバイト募集など、農業を支える人たちを確保し、農家の負担を減らします。
*スマート農業：ドローンを使ったり、トラクターを自動運転させたり、新しい技術で行う農業のことです。
- 環境にやさしい農業、農作物が良く育つための土づくり、病気や害虫、動物による被害を予防する取組を進めます。
- 農地を利用しやすくするための集積・集約化、気候の変化や災害に強い基盤づくり、農業に必要な施設の整備を進めます。
- 酪農作業を行うヘルパーを確保し、酪農家の負担を減らします。また、家畜の病気の予防、酪農の経営安定、生産性の効率化などに向けた支援を行います。
- 食を通じて、食に関する知識を身につけ、健康的な食生活ができる力を育む「食育」を行います。
- 民有林を計画的に伐採・造林するなど、適切に整備します。
- 網走湖の水質環境調査を継続して実施するほか、しじみ、わかさぎ、しらうおなどを調査し、資源が安定するようにします。

2 観光産業

- 大空町での体験や滞在が楽しめる観光プログラムの開発、観光PRや観光を支える事業者の育成を行います。
- イベントや観光施設の魅力を高め、観光客が多く集まるようにします。
- 周辺の自治体や関係団体等と連携し、イベント開催や空港へのアクセスをよくするなど、女満別空港の利用者が増えるように取り組めます。
- SNSなどいろいろな方法で観光情報を発信し、観光に関係する団体や事業者と連携を深めます。



3 商工業、特産品

- 商工事業者の経営が安定するよう支援することで、地域のにぎわいを生み出します。
- 町内での買い物のしやすさや満足度が高まるように支援します。
- 大空町の特産品の開発や、販路が拡大するように支援します。

4 雇用、労働力、産業創造

- 大空町に今ある産業や企業、新たに事業を始める人たちを支援し、働く場が増えるようにします。
- 働き手を求めている町内の事業者と、働きたい人たちをつなげ、労働力の確保に努めます。
- 町のよさを企業に伝え、新しい事業を始める場所として大空町を選んでもらえるようにします。

基本目標 2 すこやかでおだやかな生活ができる福祉のあるまちづくり

1 保健、医療

- 子どもの頃からよい生活習慣を身につけることや、幅広い世代に向けて健康状態を振り返り見直すことを働きかけます。
- 生活習慣病を予防するため、適切な食事、適度な運動、禁煙などを勧めるほか、がん検診や特定健診、特定保健指導などをより多くの人を受けられるように取り組みます。
- 福祉、医療のほか学校とも連携を深め、自らの心や周りの人の心の不調に気づき、適切に対処することができるようにします。
- 大空町に住みながら、通院や医療サービスが受けられる体制を整備できるように取り組み、必要な情報を提供します。



2 地域福祉



地域福祉って、初めて聞きました。

「福祉」はすべての人が安心して幸せな暮らしを送るための取組のことです。児童福祉、高齢者福祉、障がい者福祉など、対象ごとの福祉もありますが、大空町という地域が抱える福祉の問題を町民も参加しながら地域全体で取り組む福祉のことを「地域福祉」といいます。



- 一人ひとりの人間をいたわり、尊重する意識が高まり、広がるように努めます。
- 町民が相談しやすいような体制を作り、情報提供や相談支援を行うとともに、支援を必要としている人の情報を把握し、支援につなげます。
- 行政や町民、関係団体などが連携し、複雑化する地域福祉の課題に対応できる体制を作ります。
- 悩みを抱えた人、孤立しやすい人が地域で孤立しないよう、相談支援やネットワークづくり、見守り活動を進めます。
- 福祉に関わる人材の育成や確保により、必要とされるサービスが安心して利用できるようにします。
- だれもが生きがいをもって生活を送るために、移動手段の確保や負担を軽減できるように取り組みます。
- 判断能力が不十分な人も安心して生活ができるように取り組みます。また、だれもがその人らしく地域の中でいきいきと日常生活が送れるよう社会参加を促進します。



3 こども(若者)・子育て支援

- こども・若者が権利の主体であることを地域社会で共有し、「こどもまんなか社会」を実現できるように取り組みます。
※こどもまんなか社会:こどもたちのために何がよいことを常に考え、こどもたちが健やかに幸せに成長できる社会です。
- 妊娠期から子育て期にわたり、母子の健康を切れ目なく支援します。
- 認定こども園や児童センターを適切に運営し充実させるとともに、こどもや保護者などだれもが利用しやすい居場所づくりを進めます。
- 社会的に守る必要があるこどもや困難を抱える家庭などに対し、相談窓口と総合的な支援体制をつくります。
- こどもの貧困対策と子育て家庭への経済的負担を軽減できるように取り組みます。
- こども・子育てに対し、地域全体で支援する体制づくりと、こどもたちを地域全体で育み地域社会が続いていくよう取り組みます。



子育て支援は、これからも力を入れるんだね。

こどもの数は減っていますが、子育ての不安や負担が少しでも減るように、きめ細かな支援をめざします。



4 高齢者福祉

- 高齢者の健康づくりや介護予防を進め、社会参加と生きがいづくりを支援します。
- 高齢者やその家族などが地域で生活していけるような支え合いの仕組みや、体制づくりに取り組みます。
- 支援や介護が必要な状態になっても、自宅で安心して暮らせる仕組みをつくります。
- 住み慣れた地域で最後まで暮らせるよう、介護に関するサービス提供体制を維持します。

5 障がい者(児)福祉

- 児童の発達支援と、放課後等デイサービスを利用できる体制づくり、療育環境を充実させます。
- 働く場や日中活動する場、住む場を確保し、住み慣れた地域で暮らし続けられるようにします。
- 障がいの特性を理解したヘルパーを確保し、サービスを充実させます。
- サービスに関する情報を十分に伝え、利用者の希望に沿って提供できるよう相談支援を行います。
- ノーマライゼーション※を広げ、障がいに関わらず、だれもが一緒に安全に暮らせるように支援します。
※障がいのある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会をめざす考え方で。

6 社会保障

- 国民健康保険、高齢者の医療保険、介護保険の運営が安定して行えるようにします。
- 加入もれや未納を減らし、国民年金を受給する権利を確保できるよう制度を周知します。
- 生活保護制度を適正に運営し、生活困窮者の自立を支援します。

基本目標 3 夢と学びがひろがり未来につながるまちづくり

1 学校教育

- 確かな学力・豊かな心・健やかな体をバランスよく育み、学びをひろげる教育を推進します。
- 小さいころから切れ目なく支援を受けられるよう、一人ひとりに合った特別支援教育を行います。
- 子どもたちの情報活用能力を育て、学習への興味・関心を高め教育の質を向上させます。
- いじめ・不登校への取組として、教師と児童生徒の好ましい人間関係を基盤に、全ての子どもが安心して学べる学校づくりに努めます。
- 幼児教育から高等学校教育まで、大空町の特色を生かした一貫教育を進めます。
- 教員の指導力や情報通信の活用能力を高めるとともに、授業以外の仕事の負担を軽減します。
- 学校や通学環境の安全確保、安全に行動するための教育に努めます。
- 地域でとれた食材を使った給食を提供し、望ましい食習慣づくりや食育*を推進します。
*食を通して、食に関する知識を身につけ、健康的な食生活ができる力を育むことです。
- 大空高校では、地域・産業界・企業・大学と連携し、広く生徒を受け入れ「開かれた学校」を推進します。また、生徒が行きたい・保護者が行かせたい・地域が活かしたいと思える学校をつくります。
- 大学や高等専門学校へ進学したい生徒、学生が進学できるよう支援します。



2 生涯学習、社会教育

- 生涯にわたり、いつでもどこでもだれもが学ぶことができる学習機会の提供、地域の課題やニーズに対応する社会教育の実践、少年、青年、成人、高齢者、それぞれに向けた教育などを行います。また、その際利用する施設の有効活用、計画的な整備を進めます。
- 読書に親しむ環境づくりや、住民の生活課題や学習要求に対応できる資料の収集を進めます。
- 生きていくうえで必要な能力（ライフスキル）を子どもに身につけさせるための親（保護者）への学習機会を提供します。
- これまでの関係を大切にし、姉妹都市である稲城市や友好町である氷川町との交流を進めます。また、新たな地域との交流について、町民の主体的な活動を支援します。



3 スポーツ

- 生涯にわたって健康を保ち、スポーツのある生活ができるよう、体力・運動能力の向上や健康づくりに必要な教育を行います。
- 町民が関心をもつスポーツを把握し、スポーツ機会を提供するとともに、郷土愛の育成や地域振興にもつながる様々なスポーツ大会を開催します。
- 町民が日常的に活動しているスポーツ活動を支援します。



4 地域文化

- 芸術・文化を鑑賞する機会を充実させるとともに、芸術・文化活動を支援します。
- 郷土資料や文化財の展示方法の検討と活用・収集、適切な管理に努めます。また、貴重な天然記念物*の保護、環境保全に取り組みます。



大空町にある、貴重な天然記念物って、なんだっけ？

「女満別湿生植物群落」が天然記念物として指定されています。

*女満別湿生植物群落は、網走湖畔の低湿地にヤチダモやハンノキなどの落葉広葉樹が広がる湿生林です。その林床にはミズバショウが繁殖し、ミズバショウ群落としても代表的です。ほぼ手つかずの状態に残された北海道の低湿地林として学術的に価値が高く、昭和47年に国の天然記念物に指定されました。



ミズバショウ

基本目標 4 これからの住みやすさを支えるまちづくり

1 市街地、住環境

- 人口減少や高齢化に対応したまちづくりを行うため、コンパクトな市街地をつくとともに、農業や観光も取り込んだまちづくりを進めます。
- 美しい景観を守るため、それを妨げる行為をしないよう周知します。また、農地や森林の持つ役割を大切に、適正な土地利用、自然環境の保全に努めます。
- 住宅に関する情報発信、相談支援、建設支援を行うとともに、年齢や障がいの有無に関わらず、だれもが住みやすいと思える住まいづくりを進めます。
- 大空町の環境にあった良質で省エネルギーな住宅づくりを進めます。
- 町内の中古住宅や空き家などを活用するほか、空き家対策を総合的かつ計画的に実施します。
- 快適で安全に公園を利用できるよう公園・緑地の維持管理に努めます。
- 葬斎場、共同墓地の適切な維持管理に努めます。

2 道路

- 国道や道道はじめ、主要な道路(幹線道路)網の形成に努めます。
- 補修箇所の優先順位を判断しながら、町道・歩道の整備、橋の補修を計画的に行い、だれもが安全で快適に利用できる、人にやさしい道路づくりを進めます。
- 町が管理する道路の除排雪、凍結路面対策などで、冬も安全・安心に利用できるようにします。

3 公共交通、移動支援

- 日常生活を送る上で必要な地域交通の在り方を考え、だれもが安心・安全・快適に移動できる環境づくりを総合的に検討します。また、すでにある公共交通を今後も利用できるように取り組みます。
- 近隣市町や航空会社、就航都市、空港運営事業者などと連携し、航空路線の維持・拡大や空港の利用促進に努めます。



バスや鉄道がもっと使いやすくなるといいな～、
というのがみんなの願いだね。

町内の交通手段について、新しい技術や方法を含めて、
より便利に使ってもらえるよう取り組んでいきます。
地域のバスや鉄道についても、近隣市町と一緒に路線
維持や便利になるための要望を伝えていきます。



大空町は、お店は少ないけど、安全で平和なところが好きなんです。
これからも平和なまちであってほしいな。

こどものみなさんからは「安全」「平和」という声がありました。
インターネットやスマホの普及で、こどもや高齢者が事件に巻き込まれることが全国で増えているそうです。
大空町でも、町民のみなさんが事件や事故に巻き込まれないように呼びかけていきます。



4 上下水道

- 安定した水源の確保や供給、水道・下水道に関係する施設や管の維持管理に努めます。
- 上下水道事業の計画に基づき、健全な事業運営に努めます。

5 生活環境

- 森林や湖畔、河川も含めた自然環境や自然景観、身近な景観などを守ります。
- ペットが適正に飼育されるように努めます。
- 動物や害虫が生活環境に影響を及ぼさないように駆除や対応を行います。
- 町民・事業者・町が一体となって、ごみの減量・資源化に取り組むとともに、効率的で環境に配慮した廃棄物(ごみ)の収集・運搬に努めます。
- 廃棄物処理施設や最終処分場の維持管理、環境に配慮した施設の整備・更新を行います。
- 適切なし尿処理を行います。

6 消防、救急、防災

- 消防・救急に関する人材の育成、消防施設や消防車両の整備を計画的に進めます。
- 地域防災を支える消防団員の確保のため、魅力ある消防団づくりを進めます。
- 日頃から防災への意識を町全体で高め、自ら身を守る「自助」と地域で助け合う「共助」により、災害が発生した時にすばやく対応できるようにします。
- 災害時にすべての年代の人々に情報が迅速に伝わる広報・通信体制を確立します。
- 土砂崩れや洪水が発生しそうな箇所をあらかじめ整備するなど災害の防止対策を進めます。

7 交通安全、防犯、消費者対策

- 交通安全対策を総合的かつ強力に推進し、町内における交通事故発生数の減少に努めます。
- 地域が一体となって防犯対策を強化するとともに、消費生活に関するトラブル解消、被害防止に努めます。

基本目標 5 未来につながる持続可能なまちづくり

1 関係人口、移住、定住

- 大空町の知名度を高めながら、移住に関心がある人に積極的に町の情報を発信します。
- 移住の相談や調整（コーディネート）を行うとともに、幅広くサポートできる体制を充実させます。
- 子育て支援の取組を積極的に広め、子育て世代の移住・定住を促進します。
- 網走刑務所住吉作業所を活用して、地域の活性化や関係人口の創出につなげます。

2 情報、デジタル化

- 町民が知りたい情報、町が伝えたい情報を、多様な手段を用いて分かりやすく伝えます。
- 町内に整備した無線環境の利用を促進します。
- デジタル技術やデータを活用して、町職員の業務改善、役場のセキュリティ対策などを進めます。
- 地域の暮らしを支える様々なデータを連携し、一人ひとりにあったサービスが提供できるように取り組みます。
- 個人情報の保護に十分留意しながら、情報の公開を進めます。



3 自治体経営

- 町民にとってよりよいまちづくりができるように、デジタル化や民間との連携を進めます。
- まちづくりに関わるお金のやりくり(財政運営)をよりよく行い、町民サービスの改善に適した役場の組織づくりを行います。



役場に行かなくても手続きができるようになるといいね。



スマホが使えないと不便になるね…

インターネットを通じて、役場に来なくても手続きできる内容を拡大していきます。年齢や環境に関係なく、みなさんが便利だと感じてもらえるように取り組みます！



- 公共施設の適切な管理、民間との連携、企業版ふるさと納税*の活用などで、財政負担を減らします。
*企業が町に寄付をすることで、地域づくりを支援しながら、税の軽減を受けられる制度です。
- 税を納めやすい環境づくり、公平な税の負担を進めるとともに、税の必要性を伝え、納税意識が高まるようにします。
- 他の自治体と連携し、共通する課題を解決し、同じ目標に向けて取り組みます。

4 共生社会

- 性別にかかわらずだれもが活躍できる社会、障がいの有無にかかわらず差別なく安心して暮らせる地域づくり、外国人にとって安全・安心に暮らせる共生社会を目指します。また、多様性を理解し、尊重する環境づくりを進めます。

5 地域脱炭素

- 太陽光発電のほか、地中熱利用システムや温泉熱利用システムによるエネルギーを使うことにより、二酸化炭素の排出量を抑制します。
- 家庭や事業所、公共施設などで、電気使用量の削減やごみの減量、リサイクル等の取組を積極的に進め、二酸化炭素排出量を削減します。また、車から出る温室効果ガス排出量を削減します。
- 二酸化炭素の吸収源となる森林の保全、廃食油の利活用などを進めます。また、今後大空町で広まる可能性がある技術の調査、町民を巻き込んだ環境学習などを進めます。



「脱炭素」って何ですか？炭？



「炭素」は二酸化炭素という気体のことです。世界中で発生している猛暑や集中豪雨、大型台風などは、地球温暖化が原因と言われています。地球温暖化は、人間が活動する中で排出する温室効果ガスが原因で、その最も大きな原因は二酸化炭素の大量排出です。この二酸化炭素の排出量を実質ゼロにすることを「脱炭素」、地域が主体となって取り組む脱炭素の取組を「地域脱炭素」といいます。



6 協働によるまちづくり

- 民間やネットワークを活用し、官民協働でまちづくりを進めます。
- 自治会活動をはじめ、町民相互の交流や助け合いが増えるようにします。
- まちづくりへの住民参加や町民が主体となって行うまちづくりの活動を促進します。
- 町民との協働を進める第一歩として、町民からの声を聴き、まちづくりにいかします。
- 大空町の価値を言葉で表現し、新たな魅力づくりや他との差別化などを町全体で取り組み、大空町の知名度を高め魅力を伝える「大空町ブランド」づくりを進めます。
- 地域公共交通を利用しないことで更に不便になるという「負の循環」の解消をめざし、公共交通を利用する人を増やし、公共交通の維持や地域経済の活性化につなげます。

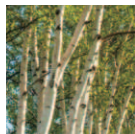


■大空町民の誓い (平成19年6月20日制定)

前文 澄みきった大空 美しい藻琴山と網走湖
恵み豊かな大地 夢はこぶ女満別空港
わたしたちは この大空町で開拓の歴史を誇り
未来にはばたくまちをつくるため ここに町民の誓いを定めます

- 本文
- 1 自然を愛し 環境と調和した美しい大空町をつくります
 - 1 生涯学び 心豊かな文化を創造する大空町をつくります
 - 1 共に支えあい 健やかで明るく暮らせる大空町をつくります
 - 1 きまりを守り 安全で安心できる大空町をつくります
 - 1 意欲的に働き 活力あふれる大空町をつくります

■町の木



しらかば



ななかまど



芝桜



水芭蕉

■町の花

■町技 (平成19年3月1日制定)

バレーボール

■大空町まちづくり宣言 (平成28年3月8日制定)

大空に人・花・心育むまち

生涯にわたる教育を「人」、農業を中心とした産業を「花」、心身の健康を「心」という言葉に込め、澄み渡る大空のもとで、たくさんの幸せが育まれる様を表しています。

■町章



大空町(OZORA)の英字頭文字「O」をベースに、澄み切った透明感のある大空、交流拠点となる空港と基幹産業である農業を青色と緑色の流線型で表し、「大空と大地の中で ふれあいと語らいで創る感動のまち」大空町を象徴しています。

■シンボルマーク (平成19年3月1日制定)



【デザインイメージ】

三角は藻琴山で角が丸いのはやさしさを表します。水芭蕉と芝桜は大空町の花。そして、三角上部の青色は湖と空を表し、飛行機が白いは、みんながひとつに染まるようにということを表現しています。

■そらっきー



【生まれの由来】

平成19年3月に決定したシンボルマークの中央に飛行機をモチーフにしたとてもかわいらしいキャラクターが配置されていました。

そこで、みなさんに一層親しまれ、身近に感じてもらうために、町民の方に愛称を募集し、平成21年3月に「そらっきー」という名前がつけられました。

大空町の「空」と飛行機の「機」の文字を組み合わせたもので、英語にすると「So Lucky」、幸せを運んできたり、運んだりするという意味が込められています。

当初、そらっきーは真っ白のデザインでしたが、平成26年12月に成長に合わせて容姿を少し変えることにしました。

愛らしい表情はそのままですが、もっと高く飛べるように両翼にエンジンをつけ、みなさんが乗れるよう機体に窓も付けました。そして、大空町を世界中に知ってもらうため尾翼に町章を付けました。